

## 中期経営計画ローリングプラン 2014 説明会 主な質疑応答（要旨）

### ◆国際線について

Q.国際線収入が190億円増加ということですが、単価要因、旅客数要因が、どのくらいなのかを教えてください。また、L/Fが1.6ポイント落ちていますが、方面別に何か特徴があれば教えてください。

A.190億増収のうち、単価要因160億と、旅客数要因が30億円となります。方面別には、前年対比では競合他社対比で当社は成田発しかないヨーロッパ線および東南アジア線での競争劣位を織り込んでおります。

Q. 国際線のイールドはどのように見えていますか？

A. 国際線については業務需要が順調に推移し、商品戦略としてJAL SKY SUITE 767/777の導入拡大や、円安による海外発旅客の単価向上により、イールドでは1.8%増を計画しております。

Q. 国際線のASK4.8%増について、現在の路線計画で増えるということでしょうか、未発表の路線計画も含まれているのでしょうか？

A. 基本的には現在の公表している路線計画の範囲での見通しですが、今後も効果が最大となるようなネットワークを構築していきたいと考えています。

### ◆国内線について

Q. 国内運賃施策 単価+0.6%上昇には 普通運賃の値上げが含まれているのでしょうか？

A. 普通運賃をはじめとした一部の運賃の値上げも含まれております。全客体における運賃では1.5%程度の値上げとなります。

Q.国際線、国内線の4～5月の需要動向を教えてください。

A.国内線、国際線ともに前年度を上回ってご予約を頂戴しております。

Q.3年後の2016年の利益をどれくらいのイメージで考えているのでしょうか？

A. 2013年度から上昇させていき、2016年度まで営業利益率は常に10%以上を目標としています。

### ◆その他

Q. 為替の計画値が107円ということですが、為替については107円でヘッジをしているのですか？また仮に為替が現在の水準（102円）の場合の収支影響を教えてください。

A. 107円という数字は、当社の計画前提であり、必ずしも107円でヘッジをしているわけではありません。現在3月末で約8割ヘッジ済のため、2割が未ヘッジです。1円当たりの感応度が26億円のため、26億円×20%×5円（102円の場合、107-102円）が費用減となり、収支改善に動くという図式となります。

Q.設備投資の過去3年間でのローリングプランと比較した増額の背景を教えてください。

A.14年度の航空機の支出は1350億だったので約400億円の増加ですが、内容は①為替による影響②A350の発注③一部のリース満了時の買い取りを計上していることから、航空機の支出が400億円増えています。

Q.2017年度以降の投資費用イメージがもしあれば教えてください。A350への投資は17年度以降増えるのでしょうか、下がってくるのでしょうか。

A.2017年度以降はまだ設定していません。航空機以外の投資は2014年がピークで今後減少していきますが、航空機の投資は少しずつ増えるものの、3年間については14年度の水準を維持していきます。

◆株主還元について

Q.株主還元の次の段階というのは、増配なのでしょうか、自己株取得なのでしょうか？

A.皆さまには株主還元としては、連結当期純利益から法人税等調整額を除いた額の20%程度を配当総額としてご案内しておりますが、その20%からの引き上げを優先的に検討したいと考えています。

◆コストについて

Q2014年度はフリーキャッシュフローが260億円と前年比減少しております。今後のフリーキャッシュフローの見通しを教えてください。

A.2014年度は航空機投資の増加等により、フリーキャッシュフローが減少しておりますが、2015年以降は営業利益・利益率を向上させ、キャッシュフロー創出の拡大を目指してまいります。

以上